

消防団長紹介



富田林市消防団 団長 久保 修

大阪府の東南部に位置する富田林市は、自然と歴史に恵まれたまちで、特に、大阪河南全域を流域とする石川の河岸段丘上に立地している寺内町には、歴史的に貴重な町並みが残されています。中でも旧杉山住宅は寺内町で最も古く、江戸時代中期の大規模商家の遺構として、国の重要文化財に指定されています。また、本市は、温暖で農作物の育成に恵まれた気候であり、都市近郊型農業が早くから発展しており、大阪府内生産高第1位のなす、きゅうりをはじめ特産物のひとつである海老芋など多彩な農産物を生産しています。

富田林市消防団は、大正2年に結成した富田林町の消防組を礎に、喜志村、新堂村、川西村、錦織村、彼方村、大伴村との町村合併や警防団への名称変更等を経て、昭和25年の市制施行で現在の消防団組織となりました。

現在、14ヶ分団・方面隊（北、東、南、西）を置き、団長以下307名の団員と、消防ポンプ自動車14台、搬送車1台、救助資機材搭載車（総務省消防庁貸与）1台の合計16台を有し、昼夜各種災害に備えています。平成22年5月には、大阪府下で初めての消防団ラップ隊を結成し、訓練や活動を通じて団員の規律や部隊統制の徹底、並びに士気の高揚を図っています。また、近年、全国で多発している土砂災害に鑑み、平成25年11月にも大阪府下初となる特殊技能隊（重機隊）を設置し、消防署救助隊との合同救出救助実践訓練を執り行うなど、消防団員の救助技術の向上に努めています。更には、平成30年6月、消防団現場指揮所が確立され、その一環として、本市消防署員の指導の下、「消防団火災特性勉強会」を開催し、消火活動技術及を習得すると共に、現場指揮に関する理解を深め、より安全・迅速な消火活動体制の強化に繋げています。

私は、昭和54年4月1日に入団、昭和59年6月1日には分団長、そして令和2年4月1日第7代消防団長に任命されました。名誉なことに平成17年には消防庁長官表彰（永年勤続功労章）、平成26年には藍綬褒章をいただきました。

消防団活動においてこれまで多くの災害を経験しておりますが、その中でも私の地元で発生した昭和54年、平成4年の建物火災、また、平成30年台風21号による風水害が記憶に残っております。どの災害においても消防団の重要な役割を再認識するような災害でありました。

消防団員は、「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、地域防災の要として重要な役割を果たしていますが、消防団員が安全、迅速かつ効果的に活動するためには、今後も新入団員の確保、女性団員の入団促進等の活動を継続していくと共に、多種多様化する災害現場では安全管理の徹底・強化を行い、被害の軽減につなげなければならないと考えております。